

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税金がくれる当たり前』

町田市立忠生中学校 3学年 阿部 夏苗

税金という私には負担というイメージがあります。それは、消費税の税率が八パーセントから十パーセントへ引き上げられたときのニューズで「負担を感じる」という声がとても多いと感じたり、実際に私も消費税が引き上げられて高いなと思うことが何度もあったからです。私はこの税率引き上げをきっかけに税金はなんのためのものなのか知り、公的サービスを運営するための費用で私たちの生活を支えているということがわかりました。もしも税金がなかったら今まで無料で受けることができていたサービスが有料になり、道や街の整備がされなかったりと私たちの当たり前が失われてしまいます。

そこでなぜ私たちは税金が負担だと感じるのかということが疑問に思いました。税金は私たちを助けるためのものなのに負担に感じているのが現状です。私は税金を負担に感じる理由を考えてみました。それは、今の状態が当たり前になってしまっていることだと思います。救急車を無料で利用できること、教科書が無料で配られること、道が整備されていることなどこれらが全て今の私たちにとって当たり前であり、税金のない生活は考えられません。しかし、世

界には税金のない国があります。南太平洋にある小さな島国のナウル共和国です。リン鉱石の採掘により栄え、二十世紀までは医療や教育を無料で受けることができ、税金を払わなくても様々なサービスを受けることができました。ですが二十一世紀に入るとリン鉱石がだんだん採れなくなってしまい、以前までの経済を保つことができなくなりました。このような税金がない状態で安定して経済を回すことには限界があります。だから今の日本にも税金は必要であり、税金があるからこそ様々なサービスを受けることができている。もしも日本がナウル共和国のように税金がなかったら今私たちが受けているサービスは有料になったり、受けることができなくなってしまうと思います。このような少しの想像で今のくらしが当たり前ではないことを感じます。

私は、改めて税金がどのような役割でどれだけ支えられているかを考えることで税金の大切さがわかりました。私たちの生活で物を買えば必ず消費税がかかります。また、これから大人になればその他様々な税金を払うことになります。だから税金が自分の生活を支えてくれていて、自分の税金が誰かの役に立っていることを忘れずに税金を前向きに捉えていきたいです。前向きに捉えることができれば実際の負担は変わらなくても考え方や気持ちが変わり、自分の未来につながる税金を気持ちよく払うことができると思うから、これからは税金としっかり向き合っていこうと思います。